

出張レポート (大阪府豊中市)

原田処理場

豊中市上下水道局御用
施工：不動テトラ・エイチエスケイJV
発注元：ヤマトガワ株式会社



遠山鐵工所代表社員てつお君の
ニュース番組へようこそ

原田処理場の鉄管搬入現場に潜入!

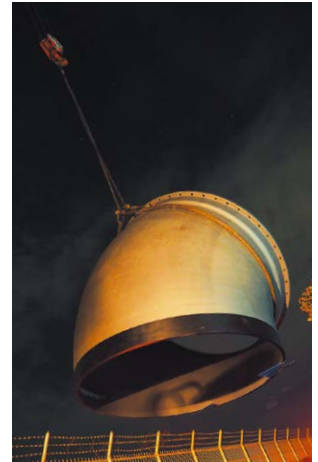
12月2日～8日に、大阪府豊中市にある原田処理場に鉄管の搬入が行われたよ。
4日夜、搬入に立ち会ってきた様子をお届けします!



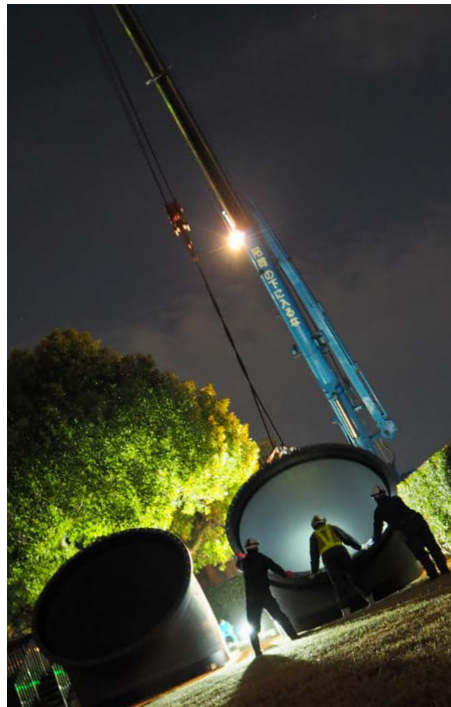
今回搬入した鉄管(K形 曲管 φ2600x45°)。



10tトレーラーで、羽生工場から2日間かけて一般道を使い運ばれてきた。



約5tの鉄管をクレーンで持ち上げる。



隣が空港で、昼間は高さ制限で搬入できない。



「暗い夜空に巨大な鉄管が浮かび上がると、重力の感覚がなくなる感じで、まるで宇宙だったよ!」



今回の工事の風景。この直管に接続するよ。



巨大なクレーン2台が使われていた。



搬入完了! お疲れ様でした!

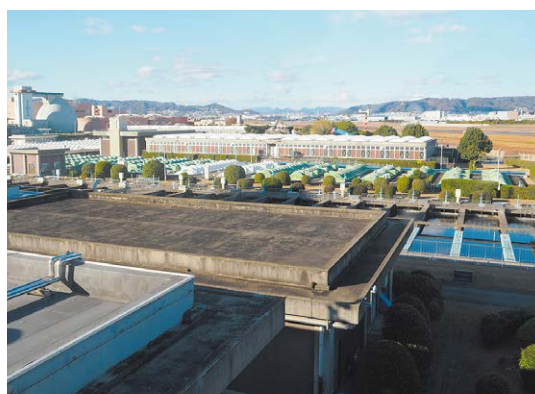
原田処理場

遠山鐵工所の鉄管が搬入された下水処理施設は広大でいろんなパワーを秘めている!

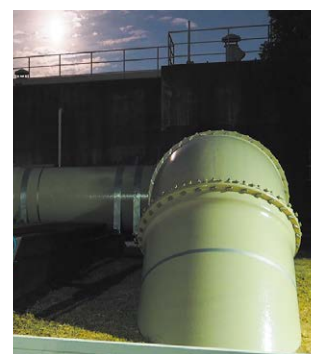
原田処理場は、正式には「猪名川流域下水道原田処理場」と言って、猪名川周辺の大阪府と兵庫県の6市2町が参加しているよ。府県をまたいで一つの下水処理場を持っているのは珍しく、国の整備に先んじて自主的に事業が始まっているからなんだ。今回は、そんな原田処理場の特徴と、周辺の街の情報をお届けするよ。



猪名川流域下水道
原田処理場
大阪府豊中市原田西町3
(最寄駅: 阪急曽根駅)



甲子園の8.3倍! という広大な敷地。奥に伊丹空港が見えるよ。



稼働しているポンプ場の遠山産鉄管。2020年2月に納入。(K形 曲管 φ1800x45°)

原田処理場はこんな所 ~バイオマス！ 空港を見下ろす広大な運動場！ 水のワンダーランド！

猪名川流域は工業地帯や住宅地が広がっているよ。1960年代、急速な都市化で広がった深刻な排水汚染に対処するため造られた原田処理場はとても広大な施設で、70万人以上の下水処理を担っているんだ。下水処理には微生物の力を使っているとこのことで、案内してもらったよ！



下水に大量の空気を送り込み微生物を増やす「反応タンク」。微生物が汚れを食べて水をきれいにする。



微生物の働きによって生まれるメタンガスを利用して発電もしているよ。(バイオマス発電)



微生物を洗めて取り除く「最終沈殿池」。上澄みを消毒設備で塩素消毒して放流する。



微生物がきれいにした下水(消毒前)。透明で、ほとんど汚れもない。ちなみに、処理場ではこの水で、金魚も飼っていたよ。匂いもない。



最初の下水は濁っている。匂いも強かった。



反応タンクで採取した水は、しばらく置いておくと、沈殿物が見られた。これが、微生物！まるで味噌汁(?)のようだったよ。匂いはだいが薄まっていた。



「最初沈殿池」。各地から送られた下水がポンプ場を経てやってくる。汚れを洗める施設。



処理場屋上に広がるスカイランドHARADA。運動場もある広大な公園で、家族連れやカップルも来ていたよ。隣の伊丹空港を見下ろせるので、迫力の着陸写真が撮れる！



見学者向けの施設「水のワンダーランド」で原田処理場のことが学べるよ

親水緑道と豊中市

原田処理場で処理された水は主に猪名川に流れるけど、一部は「新豊島川親水緑道」に流れるよ。新豊島川親水緑道は、雨水路を暗渠にして、その上に作った景観水路。ずっと河口まで歩いてみたけど、途中、毎日鳥を撮影しにきているおじさんがいて、いろんな鳥の話をしてくれたよ。その日は、カワセミを待っていたそうだよ。豊中市は元々猪名川の豊かな恩恵で稲作が盛んで、様々な遺跡が残っている。古い呼び名だと「摂津」の国になるんだけど、鎌倉時代～戦国時代には戦乱も絶えず、権力争いの舞台になったよ。明治以降近代化してくると工業地帯として、あるいは、阪急電鉄が敷かれると大阪中心部へのベッドタウンとして発展してきたよ。特に1970年の大阪万博お大きな出来事で、伊丹空港が拡張され、下水道処理場の完成も急いだんだ。猪名川を中心とした稲作文化と遺跡、戦国時代を経て、工業地帯とベッドタウン、伊丹空港、、、パワフル豊中！



近所の人の散歩道だよ。小さな魚もいたよ。



有名な撮影スポット「千里川土手」からパシャ！伊丹空港に着陸する飛行機がゴオオッ！



原田処理場の近くの田能遺跡尼崎市立田能資料館には、弥生時代の住居が復元されている。空港拡張時にも、勝跡遺跡が見つかったらしく、資料館に展示されていたよ。昔から人がたくさん居たんだね。

原田城

「原田」という地名は、元々この地方を治めていた豪族の原田氏に由来しているよ。戦国時代に織田信長に負けて原田氏はいなくなったんだけど、地名が残ったんだね。ちなみに、信長軍は、伊丹空港の東側に位置する原田城を拠点に約4km離れた伊丹城(現伊丹駅)の荒木村重と戦ったんだけど、今でも当時の土塁が残っているよ。そこからきっと伊丹城を覗んでいたんだなあと思うと、、、う～ん、ロマンだね！川のある所には歴史あり、歴史ある所には水道管あり！



原田城跡地には昭和12年に建てられた和モダンな旧羽室家住宅があるよ。今は、原田しろあと館という施設になっていて、地元の方が地域や歴史にまつわるお話を聞かせてくれたよ。原田城は、豊中台地の端に位置していて高台にあるよ。そのため、石垣を作るのではなく、天然の崖をそのまま城壁(土塁)にしたんだ。昔から豊中の人々の知識や技術は高く、治水も発達して高い石高を誇っていたそうだよ。

阪急電鉄曾根駅

原田処理場から一番近い駅は阪急電鉄の曾根駅。周辺には、カフェや和洋スイーツ屋さんがたくさんあったよ。取材途中に立ち寄った喫茶店で話したお客さんもカフェに行くのが楽しいと話していたよ。原田町や曾根駅周辺は歴史があるけど、明るくて都会的な町だったよ。

マチカネワニ

日本にもワニが居た時代があった！！豊中市内のマチカネ遺跡でワニの化石が見つかって「マチカネワニ」と名付けられたんだよ。市のマスコット「マチカネくん」のモチーフにもなっている。



曾根駅近くの和菓子屋「津の国屋」さんで売られていたどら焼き。中のあんこは、ワニの緑色だったよ！

曾根さんほ Mahotコーヒー

曾根駅近くの小さなカフェ。数種類のオリジナルブレンドが、テイastingして選べるよ。冷めても美味しく飲めることを考えているそうで、いただいた数種類のコーヒーも、苦い酸っぱいだけではなくて、チョコやウイスキーを思わせたり、花のような香りがあったり、とても美味しかったよ。少しの間(MA)にホット(HOT)できる場所。

